

震災からの復興を目指して



謹んで新年の
あいさつを申し上
げます。皆様方に
おかれましては、
希望に満ちた新年
をお迎えのことと思います。

昨年発生した東日本大震災は、地
震や福島第一原子力発電所の事故が
合わさった未曾有の災害であり、甚
大な被害と影響をもたらしました。
これによる復旧や復興対策の事業
は、国及び地方財政にも新たな負荷
がかかっています。行方市において
も三千四百戸余りの家屋で被害を受
けたほか、道路や上下水道施設、農
水産施設においても被害をもたらし
ました。その一部は、液状化被害に
よるものも含まれ、関係自治体間で
情報の共有化を図り、国等の関係機
関に対し、被災者の救済、再発防止
策、復旧復興施設に関する提案や要
望を行うため「東日本大震災液状化
対策自治体首長連絡会議」を発足し、
総理官邸に野田首相を訪ね、液状化
被害に対する財政支援や復旧復興事
業における特別措置などを求める要
望書を直接手渡しました。

行方市長 伊藤孝一

くり」を骨子として、「事業の選択
と集中」の考え方に基つき推進して
いきます。優先事業として取り組ん
でいる学校等適正配置計画につきま
しては、地域の合意が得られている
ところから順次整備を進めており、
平成24年4月に麻生中学校と麻生小
学校が、平成25年4月に麻生東小学
校が開校予定となり、平成26年4月
には統合玉造小学校が開校見込みと
なりました。北浦地区につきまして
は、北浦中学校周辺に平成28年4月
開校に向けて準備を進めていくこと
としました。そのほかにも、結婚支
援や定住化促進、第6次産業の推進、
健康づくりの推進、農畜水産物の県
外PR活動などを積極的に進めてい
きたいと考えております。

行方市周辺の基盤整備も進んでい
ます。先月、東関東自動車道水戸線
の潮来―銚田間道路設計地元説明会
が開催されました。また、東日本大
震災で崩落した北浦に架かる鹿行大
橋については、今年の6月頃には新
しい鹿行大橋が開通する予定です。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご
多幸をご祈念申し上げ、新年のごあ
いさつといたします。

安全安心に暮らせるまちづくりを目指して



新年あけまして
おめでとうござい
ます。

市民の皆様
におかれましては、

平成24年の新春を健やかに迎えの
ことと、心からお喜び申し上げます。

2011年は、国の内外で様々な
出来事がありました。チュニジア、
エジプト、リビアで、長期独裁政権
が崩壊、ミャンマーの民政移管、南
スーダンの独立など、国際的に民主
化の進展が見られました。また、ヨ
ロッパでは、ユーロ危機が深刻化し、
それが各国に波及するなど、経済の
停滞を招いています。日本の経済も、
円高、株式等の下落を招き、大きな
影響を受けています。

3月11日には、2万人を超える死
者、行方不明者を出した東日本大震
災が発生し、東北地方から関東地方
の広範囲に極めて甚大な被害をもた
らしました。行方市においても道路
や上下水道施設などが損壊したほ
か、さらには、市民の家屋にも大き
な被害が生じました。現在、復旧は
もちろん、復興に向けて市を挙げて
頑張っているところであります。

福島第1原子力発電所の事故に伴

行方市議会議長 貝塚順一

多くの放射性物質により、広範な
地域が汚染され、農作物、畜産物、
水産物等に風評被害も含め、大きな
被害をもたらしました。行方市も、
ホウレンソウ、原木しいたけ等が一
時的に出荷停止となるなど、生産者
は深刻な打撃となりました。一刻も
早く風評被害等がなくなり、今まで
どおりの流通に戻る事を念願するも
のであります。

行方市議会も、昨年4月24日の統
一地方選挙によりまして、前定数よ
り4人減の20名が新たに選出されま
した。

少数精鋭となりました市議会は、
議員全員が丸となり、議会改革・
活性化はもちろんのこと、市の直面
する課題解決に向け、市民の皆様の
代弁者として、「安全で、安心して
暮らせるまちづくり」に向け、最善
の努力をしてまいります。今後とも、
一層のご理解とご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

最後に、この一年が、市民の皆様
にとりまして、幸多い年であります
ようお祈り申し上げ、新年のごあい
さつとさせていただきます。